

24

日本赤十字病院の戦前の海外における 事業展開と現在（台湾編）

福永 肇

埼玉学園大学 経済経営学部 経済経営学科

【はじめに】戦前、日本が海外で病院を開設した地は、台湾、朝鮮、中国、関東州、満州、樺太、香港、フィリピン、シンガポール、蘭印、ビルマ、パラオ、ブラジル、ハワイ、フランスと広範囲にわたる。当時の医療はグローバルであった。敗戦後、日本が現地から撤退する過程でこれらの病院の記録は破壊や置去・散逸となった。連合軍占領下で外交権のない日本は、撤退してきた海外の病院のその後を知ることが出来なかった。日本の帝国主義時代に於ける占領地施策には功罪の両面があるであろう。しかし日本が海外で行った医療への客観的評価を行うためにも、当時の海外での医療活動を、戦後の展開も含んで調査研究、整理、記録、考察しておくことが日本医療史として必要であろうと考えた。前回の第122回学術大会では朝鮮半島における日本赤十字病院の活動を報告した。今回は台湾島での日本赤十字病院を報告したい。

【目的】日本統治時代（1895～1945年）に存在した「日本赤十字會臺灣分會醫院（臺灣赤十字醫院）」は、台湾島における基幹病院の一つであった（台湾では病院は醫院と表記）。しかしこの病院の戦後に関しては、日本では明らかに出来なかった。現在の台湾には中華民國紅十字會はあるが、赤十字病院は存在していない。臺灣赤十字醫院が辿った歴史を調査・整理し、日本医療史における史実として記録することを研究目的とした。

【方法】戦前の臺灣赤十字醫院に関しては文献・資料で調査を行う。戦後については國立臺灣大學歴史博物館などで現地調査を行い、承継病院を現地で探す。

【結果】2018年、2019年に台湾で調査を実施した。判明した台湾の赤十字病院の歴史を簡潔短絡に整理すると以下であった。1899年（明治32年）、日本赤十字會臺灣分會が設立。1905年、「日本赤十字會臺灣分會醫院」が開院。この病院は醫學校の臨床教育病院の役割も兼ね、台湾における基幹病院の一つであった。1941年に移転。1945年、日本軍は全面降伏。幸い病院は空襲被害を免れた。1945年11月、台湾は中華民國領になった。国民党政府が日本赤十字會臺灣分會の資産を敵国資産として接収し、病院を「國立臺灣大學醫學院第二附屬醫院」とした。大学病院である。ここで病院から赤十字の文字が消えた。その後の病院は所管変更により1947年に「臺灣省立臺北醫院」、1968年に「臺北市立中興醫院」へと変遷していく。現地調査の結果2005年以降は「臺北市立聯合醫院中興院」という525床の病院になっていることが判明した。

【考察】日本赤十字社は1899年に臺灣分會を設立し社員を募集したが財政基盤は脆弱で病院の開設は難しかった。一方で臺灣總督府は台籍学生の医師育成を行う「醫學校」の臨床教育施設を必要とした。かれらは互いに連繫し、結束していった。總督府が補助金を投入して台北の醫學校キャンパス内に日本赤十字病院を建設し、日本赤十字社が「醫學校」の臨床教育病院の任にあたることになった。病院は1905年に開院し、その後台湾を代表する病院の一つとして発展した。現在、臺灣紅十字會は病院を運営しておらず、赤十字病院の戦後の行方は不明であった。しかし、今回の調査の結果、統治時代に日本が残した日本赤十字病院が、現在は台北市の市立病院として継承されていることが判明した。

【結語】赤十字社（紅十字社）・赤新月社が病院事業を行っている国は少ない。現在は日本（病院数91）、韓国（6）、北朝鮮（1）、中国（若干）、タイ（1）、南アフリカ（1）である。日本がアジアで開設した赤十字病院の一部は、戦後も各国での赤十字社（紅十字社）の活動の一つとして継承され、医療提供を行っている。これらの病院事業は世界192の赤十字社（紅十字社）・赤新月社の中では異色の活動になっている。